

一第29編一ポツダム^{*1}のシンケル

ベルリンから車で小一時間の距離にポツダムはある。戦後の終戦処理がここで決定されたという意味で、敗戦国の日本とも関わりが深い。

そのきっかけともなったナチスドイツ時代の始まりを象徴する国会開会式は、1933年3月にこの地の教会で開会された。1945年4月には大規模な空襲に見舞われ、ドイツが降伏した後に同地のツェッティリーエンホーフ^{*2}宮殿で米、ソ、英の3首脳によるポツダム会議が行われた。この会談でドイツを含めたヨーロッパなどの戦後処理を決定するポツダム協定が成立し、日本に対する降伏要求であるポツダム宣言も発せられたのであった。

この街はプロイセン王家の居住地となった18世紀以来、見違えるように発展した。現存する王家の壮大な宮殿建築は、主に18世紀半ばのフリードリヒ2世^{*4}の治世の間に建てられた。そのうちのひとつが、庭園とロココ様式の内装で知られるサンスーシー宮殿^{*5}であり(写真29-1)、新宮殿、オランジェリー宮殿である。それ



写真 29-1 サンスーシー宮庭園 -1

*1
Potsdam: ブランデンブルク州の州都。人口約16万

*2
Schloss Cecilienhof: 1947年に建設された宮殿

*3
Preußen

*4
Friedrich II (1712~1786)
:: 第3代プロイセン王

*5
Schloss Sanssouci: 漢訳して「無憂宮」とも呼ばれる

らは1990年、「ポツダムとベルリンの宮殿群と公園群」としてユネスコの世界文化遺産に登録された。

ベルリンに住む友人に伴われ、私達はポツダムを数度訪れた。プロイセン以降の近代史や現代史の舞台を知ること大きな目的だったが、もう一つ、ドイツで忘れることのないカール・フリードリヒ・シンケル^{*6}の作品がお目当てだった。シンケルは18世紀ドイツにおける新古典主義建築を代表する建築家である。彼はベルリン工科大学で建築を学

*6
Karl Friedrich Schinkel (1781~1841)
*7
Philipp Johnson (1906~2005)
:: 米モダニズム建築の旗頭

んだ後、1803―1805年にイタリア、フランスに留学し、建築、造園、絵画などに関する幅広い知識を身に付けた。そして、プロイセン王室の建築家として、多くの重厚な作品を残し、ベルリンなどの都市計画・設計も手掛けた。また、画家、舞台美術家としても活躍したこともよく知られている。

その代表的な作風はギリシャ建築に倣った新古典主義建築だが、アムテス・ムゼウムにも見られる幾何学的、厳格かつ端正なデザインは、モダニズム建築の美学に通じると評される。フィリップ・ジョンソン^{*7}は、最も影響を受けた建築家としてミースとともシンケルの名を挙げています。また、王妃のための離宮(写真29-2)は、彼のイタリア文化への憧憬を端的にものがたり、その幅の広さを遺憾なく発揮している。



写真 29-2 サンスーシー離宮 (設計: F. Schinkel)



写真 29-3 サンスーシー宮庭園 -2